

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503718		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家伍番館		
所在地	札幌市白石区菊水1条2丁目179番5		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503718&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特に力を入れている事もアピールしたい事ありませんが、昨年度より消防署との連携が密になり、実のある避難訓練ができるようになりました。第1ユニットとしては、昨年よりも積極的に個別の外出支援が行われるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目を迎える当ホームは、閑静な住宅街に位置し、1階は事務室とデイサービスが併設され、良好な連携が図られています。「利用者のどの様な希望も叶えられるといいね」との運営者の意向に沿い、きめ細やかな介護計画を作成し、職員の強力なチームワークにより、受診支援や個別の外出支援等に取り組んでいます。行事や運営推進会議を通して地域の方々の理解をいただき、相互の信頼関係も深まりを見せています。介護を通じて「あなたのパートナーでありたい」と、日々切磋琢磨しているグループホームハートの家伍番館です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム全体で地域密着型サービスの意義を共有し、地域生活の継続支援に努めています。	開設当初から地域に根ざした生活を支援する法人理念に加え、命の大切さを盛り込んだ「ハートの家伍番館の家訓」を掲げ、日々実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の方が町内会行事へ参加したり、ホームの行事案内を配布し、町内の方が避難訓練などに参加して下さっています。	町内会やホームの行事に相互参加があります。町内会向けの広報誌発行、また地域の広報誌にはホームの活動が度々紹介され、ホームの理解に繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向けの「ハートの家伍番館便り」に、認知症コラムを設け2ヶ月に一度発行しし、認知症への理解を深めて頂ける様取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・町内会・消防署の方々に参加して頂き、行事やヒヤリ・事故の報告を行い、地域運営推進会議の中で、公開の火災避難訓練を実施しています。	会議は2ヵ月毎に開催し、行事や事故等のホームの現状を伝え、さらに自己・外部評価の公表、防災活動と地域の連携等が討議され、ホームの質向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の報告は直接介護保険課へ持参し、必要な意見・指導を貰い、また他のサービス提供においても、困難事例について保健福祉部などへの問い合わせを行い、的確な判断を貰っています。	行政担当者とは、ホームの困難事例や事故報告等で意見交換や課題に対して的確なアドバイスをいただき、ホームの質の向上に向けて連携が図られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に「身体拘束・抑制廃止・虐待防止推進委員会」を設置定期的に委員会を開催し、身体拘束の無いケアの継続に努めている。	法人内に委員会を設け、さらに会議や研修、マニュアル作成等で禁止の対象となる具体例の理解に努め、あつてはならない行為の周知徹底を図っています。利用者は職員の見守りの下、外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記委員会活動と、法人内で作成されたコンプライアンスルールの遵守に努めるとともに、フロア会議や合同会議で、虐待に繋がるような事を話し合い、日々虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方も居るが、管理者が主な手続きを行い、職員への学びの場は設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を読み上げ、不安や疑問については時間をかけ説明を行い、ご理解・納得を得られるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時にお話を伺う機会を設け、頂いたご意見は可能な限り運営に反映させていただいています。	意見箱の設置や外部の相談窓口を伝えています。利用者や家族には「何か意見はありませんか」と問い掛け、表出された課題は迅速に対応し、サービスに活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案を聞く機会を設けているが全ての意見が運営に反映されては居らず、最小限に止まっていると思われまます。	職員の意見や提案を受け止め、実現可能な課題には具体的に取り組んでいます。今年度は、夏祭りを外出等の個別支援に代えて利用者との繋がりをより密にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の就労環境の整備には努めているが、全ての条件について満足いけるものにはなっていません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を設け、職員は積極的に参加しています。又法人内の研修委員会主催での年3回の大研修を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列ホームとの交流や研修機会はあるが、他事業所との交流は無く、ネットワーク作りは行えていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に必ずご本人様にホームへ来て頂き、コミュニケーションを図りながら不安や要望をうかがい安心してサービス利用をしていただけるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずホームの見学をして頂き、実際に生活をされている方々の様子などご覧頂き、不安や要望をお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望された場合は、今までの家族の介護での困りごとなど伺い、必要な介護サービスについて説明を行っています。その結果他のサービスを利用される場合もあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で入居者の方が得意とされていることを役割として行って頂き「頼りにしています。」のお声掛けをし、支え合う関係構築に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも常に、ご家族様に相談し協力を得え、共にご本人を支え合う関係となっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は勿論の事、希望によって電話や手紙の支援を行っています。また近隣地域からご入居された方については、入居前の馴染みの商店などご希望に沿ってご利用いただいています。	入居以前の地域社会との繋がりを尊重し、交流があった方々や商店、施設等の関係性が継続できるよう、相互の訪問や手紙、電話等の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がお互いの居室を訪問し合い、お茶会を開いたり、買物や銭湯利用などで馴染みの関係を構築するだけでなく、フロアでのレクレーションを通し、関係を損なわないよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の生活の場の確保や、手続きなどご家族と一緒にを行っています。又ご家族様には、退去後も困りごとがあったらいつでも相談できる事を伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買物・散歩・外出・献立等希望がある場合には実現の為に調整を行っています。困難な場合は、代替での楽しみをご本人と相談し提供しています。	生活歴や詳細な個別の記録、職員間の気付きを参考に、利用者の視点で思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを活用し、生活歴や、生活習慣を知り、また入居者様自身との会話などから情報を得て把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から、出来る事・出来ない事を知り、職員間で共有し総合的に把握できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のユニット会議では、介護計画書について話し合い、また見直し時期にはサービス提供のモニタリングや検討を行い、新たな介護計画書に反映しています	生活歴に加え、医療機関やサービス提供を利用していた事業所から情報収集し、暫定プランを作成しています。3ヵ月毎の見直しや急変時には、新たな計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日常生活の様子を具体的に記入し、情報の共有をはかり、ケアの実践や介護計画書に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣の日帰り温泉利用など、その時々々のニーズに、そえる様に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活の中での、散歩や買物は勿論のこと、町内会の夏祭り行事なども、馴染みの学生ボランティアと共に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者の方には、それぞれの担当医がついており、定期的に往診・通院や変化時の受診等、連携を行っています。	かかりつけ医への受診は職員が同行しています。状態変化時は、往診や受診支援等で適切な健康管理が図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はありませんが、入居者の方の変化時には些細なことでも連絡を行い、相談や指示をいただける関係が構築できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族の希望を医療機関に伝えられる機会を設け、安心して治療が受けられるよう支援を行い、早期退院に向けて支援しています。また担当医から病状説明をご家族と共に受けられる機会を設けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状によりご家族への意思確認を慎重に行っています。病状が進行した場合は、ご家族・担当医と今後の方針について話し合える機会を設けています。看取り・重度化の指針があります。	方針を作成し同意書も備えていますが、申し出のあった場合のみの説明に止め、医療行為が生じた段階から医療機関や家族と協議を重ね、方針を共有する態勢を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修において、所轄消防署の救急隊員の協力を得て、応急処置等の実技研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いで、奇数月に夜間帯・日中帯想定での避難訓練を実施しており、実施状況確認が行われています。地域運営推進会議での公開訓練で地域住民の協力も得られ始めています	2ヵ月毎に昼夜想定での避難訓練を実施し、避難場所の確保や災害時の協力を要請するなど、地域との連携強化に努めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方一人ひとりへ尊敬の念を持ってお声がけを行うよう努め、排泄声掛けなど、羞恥心へも配慮しております。	個人記録は適切に管理し、さらに利用者の人格を尊重し、不適切な言動には、十分な配慮を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方一人ひとりの声に耳を傾け、日常の些細なことでも意向確認を行い、自己決定が行えるよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの、その日の体調や希望に合わせ、馴染みの商店での買物など、日々その人らしく生活できるように取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に合わせて理美容の利用をしていたり、衣服の買物などもご本人の好みに合わせて行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の得意な方は、職員と一緒に料理作りを行って頂いたり、食べたいものがあった場合には食事に取り入れ、会話を楽しみながら食事をしています。	食事形態や旬の食材を活用した献立に沿い、食事の一連の作業を協働し、さり気ない介助や会話を交えながら、食事時間を過ごしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病のある方については、担当医から食事内容や水分量の指示を頂き支援しています。また嚥下状態に合わせ食べやすい食事形態の工夫も行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、口の中の状態を確認しています。連携先の訪問歯科の定期検診により、口腔内のブルについて早期発見が来ています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室内でのポータブルトイレを使用されている方も、共有スペースのトイレを使用できるよう支援し、排泄リズムに沿った誘導を行い、排泄の自立に向け取り組んでいます。	排泄チェック表を参考に利用者の表情や動作を察知し、トイレへの誘導や自立排泄に向けて支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方に対しては、乳製品を多めに摂っていただき、腹部のマッサージなど行い取り組んでいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかに予定が立てられていますが、ご本人の体調や気分に合わせて柔軟に対応しています。また日帰りの温泉や銭湯の利用なども個別に行い、入浴支援を行っています。	毎日入浴できますが、週2回以上の入浴支援をしています。困難な場合は、シャワー浴、足浴、時には温泉や銭湯等の支援を行い、清潔保持に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況により、休息のお声掛けを行い、穏やかに過ごせるように支援しています。また日中の活動支援により、夜間熟睡できるよう支援しています			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の受診ファイルには、最新の薬事情報を保管し、内容把握を行い、内服薬変更時には変更後の様子確認を行い体調変化に留意しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事をホームでの役割とし、料理・ゴミ捨て・届け物・車椅子点検などをする事で、生き甲斐感を持っていただけるよう取り組んでいます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿い、散歩や買物など行い、体調に配慮しながら、百合が原公園や動物園・大型商業施設などでの外食など、楽しんでいただいています。町内会の行事にも出かけています。	利用者の体調や天候に配慮し、散歩や買い物、さらに年間の外出行事を企画し、花見や温泉旅行等で五感刺激に繋げています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が可能な方については、ご家族了承を得て自己管理して頂き、希望の商店で商品を自ら選び買物ができるように取り組んでいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けることや手紙を自分でポストに投函できるよう支援し、友人や家族との関係が途絶えないようにしています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理などに配慮しなら、季節の移り変わりや、行事なども壁画制作で表現する事で、入居者の方々に体感していただけるよう取り組んでいます。不快な音や匂い等にも注意を払い居心地の良い空間作りに努めています。	空調や採光に配慮した共有空間は、利用者と職員の四季折々の共同作品や行事での笑顔満載の写真が掲示され、利用者は思い思いの居場所で寛いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなどを配置し、共有スペースと個の空間を設けることで、入居者同士の適度な距離感を大切にしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や品物を持ってきていただき、居心地の良い居室となるよう工夫しています。	入居以前の生活が継続した居室作りの支援に努め、馴染みの家具や調度品、家族の写真や趣味の物に囲まれ、安心して暮らせるよう心配りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺やすべり止めを使用し、安全な環境整備に努め、トイレの案内や居室の目印を表示し、安全な環境づくりに努めています。		